

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3272100268		
法人名	堀建設株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩 ひのき棟		
所在地	島根県鹿足郡津和野町河村506-3		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年3月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

H25年津和野豪雨において自主避難をした経験を活かし、水害に対する防災訓練にも取り組んでいる。H28年のグループホーム被災のニュースを受け、災害マニュアルを見直すと共に意識強化と避難体制強化のため、施設内防災委員会を中心に訓練の立案、実施を行った。防災無線を使用しての津和野町主催の避難訓練にも参加をした。火災訓練においても総合訓練の他、夜間避難誘導訓練を実施している。自動火災報知機の改善で消防署、スタッフ直結システムが出来た。家族会では避難用具の体験コーナーを作り、実際に体験してもらい、改善案を頂いた。また、避難に必要なものや非常食の作り方等の綴りを配布した。AEDが導入され、緊急時の対応強化も図っている。今後も災害時の安全確保と避難体制の強化を継続していく。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

慢性的な職員不足の中で、事業所全体でケアの向上を目指し職員は互いに協力し合い利用者の生活を支えている。代表者は面談や「いいねカード」で職員の声を聞くことに努め、施設間のスタッフ交流を始めるなど意見をすぐに改善に繋げている。防災に意識的に取り組み、水害想定の実地訓練を実施し地域の災害避難訓練にも利用者と共に参加している。家族アンケートを実施して意見の引き出しに努め、家族会では喫茶コーナーなどを設け交流の仕方を工夫している。家族会として「家族会つうしん」を発行し家族に事業所の情報を伝えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(ひのき棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく過ごして頂く為カンファレンスやスタッフ会議で検討をし理念に向かっている。	会議でケアの振り返りを行い、利用者が穏やかに暮らせるように職員は理念を意識して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方より声をかけてもらい、花見、公民館まつりに参加、28年度は公民館の避難訓練にも参加した。野菜の収穫にご近所の参加があり、親子での施設訪問があった。家族会の手伝いに中学生の参加があった。	地域の花見や公民館まつり、事業所の運動会や芋掘りなど、互いに声をかけ合い交流を図っている。多彩なボランティアの協力や保育園児の来所など継続し、今年度は近所の親子の訪問もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長の運営推進会議への参加 通信の地域回覧。 認知症サポーターの施設見学で意見交換を実施 中学生の職場体験学習の受け入れ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告をし、事故対応や、入居者の心理症状について検討。 アンケート結果等について意見をもらっている。	事業所の現状を伝え、ヒヤリ・ハッとや防災対策など話し合い助言を受けている。委員はそれぞれの立場から積極的に意見や要望を伝え、出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加してもらい現状の把握してもらっている。質問や提案をもらっている。日常的に判らないことは、問い合わせをしている。	わからない事を聞いたり、運営推進会議で現状を報告している。認知症や災害などについての町としての対策を聞き協力して取り組む関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はしていない。好きな時に出入りをしている。	虐待アンケートの実施や、「気になる言葉」を書き出し意識の共有化に努めている。転倒の危険のある場合はベッドの位置を変えて対応したり、玄関は施錠せず身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理解が出来ている。スタッフ会議で研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価(ひのき棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ研修で人権について研修した。成年後見制度の利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとり、説明をしている。理解は得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換。研修委員によるアンケート実施。要望等を把握し改善に努めている。	家族会や運営推進会議、アンケート調査などで意見を聞き家族の声を運営に反映させている。家族には記録を開示し、便りや近況報告などで様子を伝えている。家族会会長が「家族会つうしん」を発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いいねカード記入、社長の個人面談など意見提案は出来る状況が出来ている。	職員が互いに良い所を書き合う「いいねカード」や、代表者が面談を実施し、事業所全体で職員の意見を聞く工夫をしている。他事業所とのスタッフ交流を始めるなど、出された意見はすぐに改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長が個人面談を実施。各職員の現状を把握し、管理者等と共有し、環境の改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、実践者研修、個人研修の参加がある。スタッフ研修では社長の研修、研修委員の研修を実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自施設管内の交流研修を実施した。益田圏域GH職員交流会では、事例検討や講演会が実施された。		

自己	外部	項目	自己評価(ひのき棟)	
			実践状況	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅、掛かりつけ医より情報を得ており職員も情報の共有は出来ている。安心出来るよう話をしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には現在の様子をしっかり聞き、どのようなケアが必要か話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多方面より情報を得ている。医療連携も含め、ケアの方法を話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭き、新聞折り、雑巾縫い、など出来る作業は一緒に行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員、ホーム長より状況報告は密に出来ている。面会時には一緒にの外出、周辺散歩など一緒に過ごして頂くよう声をかけている。誕生日会への参加、外出をする方がいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問、馴染みの店での買い物実施。面会の方とは居室でゆっくり話して頂くよう配慮している。	ふるさと訪問や家族との外出、外食などを支援し、家族との関係や利用者の馴染みの場所を大事にした支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格、ペース、レベル等に合わせ、その時々で席替えを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価(ひのき棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援は無いが終了後も面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴、午睡、就床時間など本人の希望を聞いている。困難な場合は表情などで判断している。	家族から情報を得たり、日々の関わりの中で声をかけ様子を見て思いの把握に努めている。プランの見直し時には利用者の希望や思いについて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より本人の環境、趣味、などの情報ももらい、家族の葛藤も手紙で頂き、本人に対しても家族に対しても寄り添うよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に目を通し、前勤務者からの申し送りの時間を作り体調、気づきなど共有し、また意見交換をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施している。意見交換をしながら、また、その都度家族からの要望等を聞き検討している。	家族から希望や情報を聞きカンファレンスで話し合いプランを作成している。毎月担当者がモニタリングを行い職員間で情報交換をし見直しをしている。	次のプランに繋がるように、「介護記録」のケアの実施状況の記載の仕方を皆さんで話し合われてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケース記録に記録している。介護記録には介護計画に沿ったケアの記録項目があり、実施内容、様子が判る様になっている。居室担当の意見も聞いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わり必要時には受診支援をしている。入院時の洗濯代行		

自己	外部	項目	自己評価(ひのき棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加 (花見、公民館祭り、地域防災訓練、買い物等) 保育園、フラダンス、仏婦、民生委員等のボランティアの協力がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族の希望を聞いている。往診が2回/月ある。必要時には受診を行っている。	家族と話し合い希望に沿ったかかりつけ医を受診している。定期的に医師の訪問診療があり連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りにより、情報を共有し、随時看護師に報告している。必要時には指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現場～看護師～相談員～医師の連携がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し意向を確認をしている。状況に応じ、その都度意向の確認をし話し合いの場をもっている。	利用者の状況変化に合わせて関係者が話し合い対応している。これまでに看取りの経験があり、現在家族の希望で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の実施 火災 水害 スタッフ研修により都度訓練をしている。 感染症対応実習 AED導入 蘇生訓練		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練、水害避難訓練、地域災害避難訓練実施 消防署直結連絡システムがある。一部スタッフ直結システムがある 近隣住民への連絡網がある。	水害避難訓練を行いマニュアルを追加した。運営推進会議で対策を話し合ったり、地域の防災訓練に利用者も参加するなど意識的に取り組んでいる。防災委員が備蓄品で食事を作る体験をした。	

自己	外部	項目	自己評価(ひのき棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの声掛けは、小さな声で、「お部屋へ」とか言葉を選んでいる。	トイレへの誘導時は声の大きさや言葉遣いに気をつけ、自分でできることはして貰い尊厳を傷つけない配慮をしている。接遇の勉強をし利用者を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけにて、今何がしたいか、把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズム、ペース、状況に応じた対応は出来ているが過ごし方の希望の把握は難しい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水、クリーム使用の継続、髭剃り一部介助、衣類の選択ができる人には聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の下膳、食器を洗う等できる事はしてもらっている。	盛付けや片付け、台拭きなど利用者の力が発揮できるように支援している。ぼた餅や桜餅、おやつ作りなど利用者と一緒に楽しめる場面を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量1000cc以上/日に努めている。糖尿病の方には、糖分を控えている。食事が摂れない方は栄養補助食品の提供。ミキサー食、刻み食の提供がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。		

自己	外部	項目	自己評価(ひのき棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リズムを把握している。時間をみて、声かけ、案内をしている。日中布パンツ、夜間リハビリパンツと個々に適した物を使ってもらっている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りや同行、声をかけて支援している。利用者の状況に合わせて検討し、布パンツやパットなどその人に適したものを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後、コップ1杯の水を飲んでもらい、自然排便を促している。飲み物を牛乳にしたり、バナナジュースにしたり工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、声かけにて行っている。	毎日入浴ができる状況を作り、体調を見ながら声をかけて希望を聞き支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や表情をみながら、各居室にて休息をしてもらっている。安眠できるよう寝具のチェックも細目に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧で確認をしている。薬の変更があった場合も確認を行い、様子に変化がある時は報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクや月行事を計画して参加をもらっている。縫い物、新聞折りをスタッフと一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との外出、外食を実施した。自由に外庭への散歩をしている。買い物を兼ねたドライブ実施。	今年度はドライブを兼ねてユニットが交代で買い物に出かけている。天気の良い日は散策したり、家族と外出、外食をする人もいる。芋掘りや桜見物など戸外で活動する場を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価(ひのき棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向やトラブル防止のため、現金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の支援がある。手紙のやり取りは無いが届いた手紙は渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた壁画を毎月飾っている。クリスマスツリー、リースを飾るなど、季節感を取り入れている。音、温度等には配慮が来ている。生活感は自然に出ている。	両ユニット共に季節感のある壁画を飾り、音や温度に配慮している。ソファや和室があり好きな場所で過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは自分から座りたい場所に座り他の方と話しをしている。自分で場所を決めている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夫々が馴染みの家具などを搬入し生活をしている。配置も状況に合わせ、変えている。テレビ、仏壇の持ち込み。携帯電話の使用がある。	仏壇や家族の写真、化粧品、テーブルなど利用者、家族の希望の物を持ち込み、自分で掃除できる人はモップを置いている。転倒防止の為、タンスやベッドの位置を工夫し安心して暮らせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表記を判り易くしている。居室に名札を付けている。トイレ、廊下には手摺が設置してあり安全に自分で移動できるようにしている。		